

事例8

<事例概要>

- ・慢性腎不全で維持透析、クモ膜下出血でV-P シヤント挿入中の患者。
- ・死因は、カテーテルの血管外留置による縦隔血腫（推定）。死亡時画像診断（Ai）有、解剖無。
- ・人工透析のための血管確保目的で、X線透視及び、リアルタイム超音波ガイド下に左内頸静脈へ長期留置型血液透析カテーテルを挿入した。カテーテルからの逆血は認めなかったが、注入はスムーズにできたため、血管内に留置されていると判断した。翌日、透析を開始し、返血用ルートとしてカテーテルを使用した。体外循環血流を増量したところ、眼球上転、意識消失、呼吸停止がみられた。胸部X線にて縦隔血腫を認め、1時間後に死亡した